

東広島医療センター 呼吸器グループ

Updated Topics and Report (7th issue)



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において日常診療に携わっておられる先生方へ、定期的に“**Updated Topics and Report**”を、お届けしております。

当グループは今日まで地域医療機関の先生方から多くの患者さんをご紹介いただき診療実績を

積み上げてまいりました。先生方や地域の皆さんに信頼していただける医療を提供できるよう今後も診療レベルの向上に努めてまいります。また併せて情報発信を行っていきたくと考えております。大変ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間にもお読みいただければ幸いです。



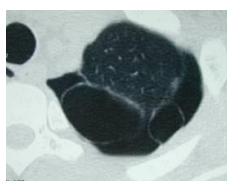
今回は『**気胸センター開設のお知らせ**』と『**術前放射線化学療法後に整形外科と共同で脊椎合併切除を施行した胸壁浸潤肺癌**』の症例報告です。

2019年7月

▶ **気胸センター開設のお知らせ**

気胸とは肺の一部が破れ、肺がパンクする（しぼむ）病気です。肺が破れてしまう原因により以下のような種類に大別されます。

1) **特発性気胸（原発性気胸）**：肺の表面にできた嚢胞（ブラやブレブと呼ばれる病変）が破れて生じるもの



2) **続発性気胸**：肺気腫（COPD）や間質性肺炎など、通常の肺嚢胞以外が原因で生じるもの

3) **外傷性気胸**：外傷や針治療などが原因で生じるもの

気胸の治療を行う上では、上記1)～3)の**病態別に綿密な治療計画に基づき、呼吸器の専門的な知識をもった医療スタッフによる対応が重要**と考えております。昨今増加している上記2)続発性気胸の多くは高齢者で気胸以外にも循環器系や糖尿病などの併存疾患を多く抱えている場合も少なくありません。当院では複数の診療科による協力のもとで治療を行うことが可能です。

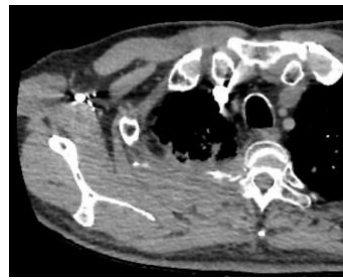
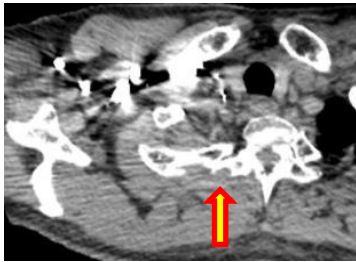
いずれの病態においても迅速な対応が必要であり、地域医療機関からの受け入れを柔軟に行い、早急に治療を行なえる体制の確立を目的に当センターを設立する運びといたしました。

気胸センターの詳細につきましては、同封のパンフレットもしくは病院ホームページをご参照ください。

➤ 術前放射線化学療法後に整形外科と共同で脊椎合併切除を施行した胸壁浸潤肺癌の1例

(症例) 62歳の男性。数か月続く右腋窩と背部痛を主訴に紹介医を受診。肺癌疑いで当院紹介となった。

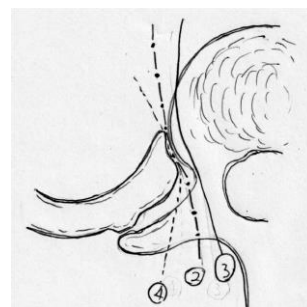
(画像所見) CT検査では右肺尖部背側に腫瘍陰影有り。第3, 4肋骨および第3脊椎横突起に骨破壊を伴っており**(右図)**、胸壁・脊椎浸潤肺癌が疑われた。第2肋骨横突起にも浸潤が疑われる所見を認めた**(左図：矢印)**。



(呼吸器グループカンファレンス) CTガイド下針生検で扁平上皮癌

cT4N0M0 Stage IIIA と診断。術前放射線化学療法を行なったうえで、整形外科と共同での脊椎合併の切除術を行う方針となった。

(手術所見) 側臥位で胸腔内操作から開始。上葉を胸壁浸潤癌部と肺門部に自動縫合器で離断後、上葉切除を終了。腫瘍は触診上、第2肋骨への浸潤も否定できずマージン確保も兼ねて2, 3, 4肋骨の腹側、頭尾側を切離。次に腹臥位とし整形外科による脊椎の切除に移行。第2, 3胸椎の横突起には浸潤が疑われ、横突起と椎間関節、さらに第3椎体骨膜も合併切除した。第4脊椎には明らかな浸潤は認めなかったが、視野およびマージン確保のため横突起を合併切除し腫瘍を摘出した**(右図)**。



(病理検査所見) 第3, 4肋骨、第3胸椎横突起に腫瘍浸潤を認めたが切除断端はすべて陰性。術前治療効果はEf2(中等度)であった。ypT4N0M0 Stage IIIA で手術時間は7時間43分であった。

(術後経過) 経過良好で術後16日目に退院。外来で補助化学療法を施行し経過観察中である。

(考察) 脊椎まで浸潤した肺癌に対して切除術が適応となる症例は極めてまれである。本例は東広島医療センターにおける**複数診療科(呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・整形外科)**と**コメディカルの充実した医療スタッフが協力して集学的治療を実施し完全切除できた症例**であった。

➤ 呼吸器内科部長：村上医師が研究代表者の研究課題が日本学術振興会の科学研究費助成事業(科研費：基盤研究C)に採択されました。

大学病院や先進研究機関以外から採用される確率は極めて低い『科研費』に、当院独自の研究課題が採択されました。当院の臨床研究部が開設されて以来初の快挙であり、呼吸器グループ全体としてこれまで通りの診療活動に加えて、最先端の研究活動にも取り組んでいこうと考えております。

東広島医療センター呼吸器グループは、**最高レベルの医療を提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療**を心掛けてまいります。また**原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するように心がけております**。何かご不明、ご不満な点などございましたら担当医までご一報頂けたら幸いです。

東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡ください(地域医療連携室 FAX: 082-493-6488)。